

INFORMATION Book

中央公民館
図書室から
お知らせです

ほん 大好き



中央公民館図書室 ☎42局7200番

今月新しく入りました。

●一般の本

／ひなこまち (作=畠中 恵) / 猫背の虎 動乱始末 (作=真保裕一) / 尋ね人 (作=谷村志穂) / すみれ (作=青山七恵) / 英雄はそこにいる (作=島田雅彦) / 定年待合室 (作=江波戸哲夫)

●子どもの本

／おばけのアッチほっぺたぺろりん (作=角野栄子) / ずっとずっといっしょだよ (作=宮西達也) / あかちゃんかたつむりのおうち (作=いとうせつこ) / とかげさんちのおひっこし (作=藤本四郎) / おいもさんがね・・・ (作=とよたかずひこ) / くんくんこいぬがうまれたよ (作=ディック・ブルーナ)

中でもこの本が **オススメ** です。

柔らかな犀の角

作=山崎 努



ばらばらの自分、浮浪と矜持、幻のマク・ベス、危ない生き方、身体の力、兵士…。読書のよこびから演技論、生と死の「かたち」まで、「本」から広がる名優の随想ノート。「演じる人」ならではのシニカルかつユーモラスな視点に満ちた1冊。週刊誌の好評連載「私の読書日記」4年分を収録。

ぴたっとヤモちゃん

作=石井きよたか



くつつくのが大好きなヤモリのヤモちゃんは、今日もみんなにピタッとくっついてます。「やめてよー」と言われてもおかまいなしにピタッ！甘えん坊でちょっとうとうとしいけれど、なぜか憎めないかわいいうつやと、仲間の動物たちがくり広げる、ほのぼのの愉快な絵本です。



舟を編む

作=三浦しをん

冊の辞書が完成するまでを追った本。言葉は生き物である。その膨大な数の言葉の見出し語や語釈や作例は、誰かが考えるに考え抜いた言葉の積った書物、それが辞書だ。辞書用の特殊紙を開発する製紙会社、リンクを研究する印刷所、全てを

取りまとめ編集に駆使する出版社、作る人の長年にわたる不屈の精神と叡智の結晶でもある。言葉の海に希望を乗せ過去から現代、現代から未来へと編み継がれるであろう舟に、私も漕ぎ手(愛用者)の一員としてお世話になっている。



まわるおすし

作=長谷川義史

ず絵本のあまそびのページに寿しネタが使われる魚の漢字がずらり。今、流行りの回転寿しに家族で行った時の様子がリアルに表現されている。そこには合図で伝わることばがある。食べ盛りの子どもには自分で選んで腹一杯食べられるのは、至福

の時間だろう。でもサイフを握る者にとつては？ 家族で楽しめる絵本である。

春の桜、夏の海、秋の紅葉、冬の雪…。美しい四季が体感できるのは日本人の特権。そんな私たちがだからこそ、読みたくなる「旬の本だな」シリーズ「旬の本だな」。9月は「ことばは生き物」をテーマに2冊の本をご紹介します。紹介者は山内博子さん(鞍手町文庫連絡会)です。



／9月の休館日は、5日(水)です

／開館時間は午前9時から午後5時まで／返却期限が過ぎている本は、至急ご返却ください

